



2020年4月1日

各 位

会社名 玉井商船株式会社
代表者名 代表取締役社長 佐野 展雄
(東証第二部・コード9127)
問合せ先 常務取締役 木原 豊
(TEL 03-5439-0260)

当社株式の時価総額に関するお知らせ

当社株式は、2020年3月における月末時価総額が10億円未満になりましたので、今後の見通し等につきまして、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 当社株式の時価総額について

当社株式は、2020年3月の月末時価総額が10億円未満となりました。東京証券取引所の有価証券上場規程第601条第1項第4号a本文では、9ヶ月（事業の現状、今後の展開、事業計画の改善その他東京証券取引所が認める事項を記載した書面を3ヶ月以内に東京証券取引所に提出しない場合にあっては、3ヶ月）以内に、毎月の月間平均時価総額及び月末時価総額が10億円以上にならないときは、上場廃止になる旨規定されております。

(ご参考)

- | | |
|--|----------------|
| (1) 2020年3月の当社月間平均時価総額 | 1,041,716,000円 |
| (2) 2020年3月末日時点での当社株式時価総額 | 902,244,000円 |
| (2020年3月31日終値 467円×2020年3月末日上場株式数1,932,000株) | |

2. 今後の見通しについて

当社グループの2020年3月期第3四半期（連結）の損益につきましては、売上高は35億2百万円（前年同期比15.4%減）、営業損失は3億33百万円、経常損失は3億89百万円、親会社株主に帰属する四半期純損失は2億80百万円となりました。また、2020年3月期通期（連結）の損益につきましては、売上高は50億60百万円（前年同期比7.8%減）、営業損失は2億20百万円、経常損失は2億90百万円、親会社株主に帰属する四半期純損失は1億50百万円を予想しております。

このような厳しい経営状況にありますが、当社グループは、安全と顧客へのサービスを第一に考え、外航海運部門につきましては、引き続き市況リスク並びに運航リスク等による影響を念頭に置き、当社船5隻を可能な限り効率のよく配船することに努め、同時に新規カーゴの獲得に鋭意努力を続けていく所存です。また、内航海運部門につきましては、所有する内航タンカー1隻の定期貸船と長期用船中の内航貨物船2隻の効率配船による安定収益の維持に努め、また本年2月に発表しました、液化ガスばら積内航船の建造・運航により、更なる収益拡大を目指します。外航・内航共に現状の収益性の改めて見直し、財務体質の健全化を図り、今後とも東京証券取引所における上場を維持できるよう努めて参ります。

今後3ヶ月以内に東京証券取引所へ「事業の現状、今後の展開、事業計画の改善その他東京証券取引所が必要と認める事項を記載した書面」を提出し、開示する予定であります。

株主の皆様をはじめ、関係者の皆様には大変ご心配をお掛けしておりますが、今後とも、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

以 上